

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513498		
法人名	医療法人社団 健和会		
事業所名	認知症グループホーム あずましの里ななえ		
所在地	北海道亀田郡七飯町本町4丁目7番16号		
自己評価作成日	平成26年1月11日	評価結果市町村受理日	平成26年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0191513498-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

七飯町本町の住宅地に囲まれ、目の前には緑豊かな公園があり敷地内には花壇や園芸スペースもあり四季を感じながらのんびりゆったりと生活を送って頂ける様に取り組んでいます。施設内にはゆとりある空間となっており居室も広くとる等配慮し、道南でも珍しい「若年性優先型」のグループホームとして開設しています。運営主体の健和会は様々な介護保険事業を運営しており隣接する老人保健施設・通所リハビリテーション・訪問看護ステーション・通所介護サービス・居宅支援事業所・サービス付高齢者住宅等があり、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・ケアマネジャーや相談員等多職種が連携してトータル的に支援出来る体制が整っています。また、入居者の皆様やご家族のご意見・ご要望等を大切に、お一人おひとりの思いを実現出来る支援を心掛け最期まで自分らしい生活が送る事が出来る様に、職員一人ひとりのケア・サービスの質の向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR七飯駅近辺の閑静な住宅街の中に、昨年3月に開設した当事業所は、今回が初めての外部評価である。母体法人が運営する老人保健施設、サービス付き高齢者住宅、他各種介護保険事業所、「温泉ゆうひの館」も隣接しており、系列施設の利用者や大勢の地域の方々が利用しており、憩いと安心感を与えている場所でもある。事業所の特徴は、若年性認知症の方を対象としているグループホームで道南でも珍しい施設である。管理者は近年、増加しつつある若年性認知症の様々な課題を理解し、画一的対応に疑問を感じ、新たな理想を心に懐き、日々職員と共にケアに取り組んでいる。夏には事業所周辺の畑に各種の野菜やお花を植え、職員は利用者の指導に従いながら収穫時は豊作となった野菜やスイカを近くの事業所におすそ分けしている。利用者は「室内パターゴルフ」に熱中して笑顔と歓声があり、玄関前の雪かきを自分の仕事とするなど、抑圧感のない自由な暮らしを支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有スペースでもあるリビングと繋がっている事務所カウンター上に必ず誰もが目につく様設置し、常に意識出来る様に掲示している。施設名でもある「あずましい」暮らしの提供を日々心掛け実践に繋がっている。	我が妻が側にいるような居心地のよさが語源といわれる「あずましい」の方言を、事業所の名称と理念に取り入れ、月1回のカンファレンスの中で職員間で共有し実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入。七夕行事ではポスターを作成し近郊の商業施設に掲示してもらい地域の子供達に参加を呼び掛けする等利用者との交流の場が持てる様に努めている。	町内会に加入し、お祭りや城岱牧場ジャズコンサートなど多彩な行事に参加している。七夕まつりには地域の子供達が大勢立ち寄り、「温泉ゆうひの館」に通う近所の方々と利用者が挨拶を交わしたり、自宅の庭のお花を届けてくれるなど、交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広域での若年性認知症の人を抱えるご家族からの相談や地域の高齢者からの相談、施設見学等常時対応出来る体制をとっており必要な情報提供も行っている。また、運営推進会議の中でも地域と共に何が出来るのかを話し合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域・ご家族・入居者・包括支援センター等様々な専門職の方々に参加して頂き取り組み状況の報告、意見交換を行いサービス向上に努めている。	2か月毎に開催している運営推進会議は、理事長、行政、包括、町内会と町内同業者、家族などが参加して実施している。事業所の運営状況や各委員会からの報告など多岐にわたり協議し意見をもらい、サービスの質の向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一度の運営推進会議には七飯町の担当者に毎回出席して頂き実情を報告し、アドバイスや指導を受けている。日常的にも相談・助言を受ける様努めている。	行政とは、母体法人の幹部が連携を取り、情報提供を受けたり、若年性認知症についてのアドバイスや町主催の研修会の案内、介護保険関連の連絡など常に密にしており、良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアル作成。ミーティング等でも常に話し合い、法人主催の勉強会に参加し職員の知識・意識向上に努めている。また、日常生活の中で不適切なケアの有無を確認し互いに注意しあっている。玄関は日中鍵を掛けておらず、夜間のみ防犯の為ご家族に説明し同意の上施錠している。	職員は1か月に1回「不適切なケアのチェックシート」で自己評価し、日々のケアの振り返りと今後の課題に取り組んでおり、身体拘束をしないケアへの意識は極めて高く、利用者の自由で快適な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士がお互いに意識すると共に虐待と思われる場合には注意し合える環境になっている。不適切なケアの有無についてもチェックシートで月1回評価し、話し合い防止に努めている。		

認知症グループホーム あずましの里ななえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各資料をファイル保管しており、職員がいつでも調べる事が出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を十分に説明し同意を得ている。後で不明な点や疑問点が出て問い合わせ出来る体制になっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談受付箱を設置している。運営推進会議を始めご家族が来所時等出来るだけ多くの機会に話し合いの場を設ける様努力している。	家族の訪問時にコミュニケーションを図ったり、電話での連絡時に意見や要望を聴取している。表出された課題は職員間で協議し、運営に反映させている。	今後、管理者は家族アンケートの実施を検討しているので、結果を集約し、運営に反映されることを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内の各管理者が参加する運営会議、グループホームスタッフ間での会議をそれぞれ月一回開催する事によって、運営方法に関する意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。	月1回のスタッフ会議で職員の意見や要望を聴き、課題により法人内の運営会議で検討したり、職員間で即対応して反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を基に就業上の不明点や疑問点については懇切丁寧に説明し、改善点については積極的に検討している。また、自由に意見交換が出来る職場環境を作る事によって職員それぞれが意欲的に働く事が出来る様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験に合った研修会に参加を促し、法人内部においても勉強会が開催される為積極的に参加しスキルアップに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われる研修会や法人内で行われる研修会に参加する事によって意見交換の機会を作ると共に、町内の他事業所ともお互いにイベント等で行き来して交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談は2人以上で行いフェイスシート等から情報を共有し、ご家族から生活習慣等を聞き取りし、ご本人からはコミュニケーションを多くとる事で不安や要望等を聞き出し安心に繋がる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問・相談等から困っている事、不安や要望を聞き取り話し合う時間を設けケアの方向性を導き出し、利用者が一番良い方向になる様努め、ご家族の安心が得られる様信頼関係作りに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療・介護・社会資源の利用状況を把握し必要なサービスを明確にして支援を見極め、必要に応じて医療・居宅サービス・地域包括等の各関係機関と連携し支援出来る。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人自身の症状や性格を理解し、人生の先輩として敬い入居者自身が主役になれる様支え合う気持ちで支援し関係構築に向け取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に訪問でき、訪問時にはゆっくりと過ごせる様な雰囲気作りを心掛けている。敬老会やクリスマス会等のイベントを企画し、ご家族と一緒に過ごせる機会を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が面会に来られたり今まで通っていた美容室や地域の商店に買いや外出をしている。遠方のご家族には電話のやり取りで関係を継続出来る様に努めている。	利用者は地域の出身者が多く、温泉の通り道でもあるため、ご近所の方々が立ち寄り、買物、外出時にも声かけしている。馴染みの美容室の利用や、町の文化祭に出かけるなど関係が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しトラブルが起こらない様に座席等の配慮を行っている。また職員は会話に参加し見守りを行いながら必要時会話の仲介を行う等関係が円滑になる様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には退居先に十分な情報提供を行いご本人・ご家族の不安が無い様に相談・助言を行う様努め、面会に行く等関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族からの情報を基に日々の関わりの中でコミュニケーションを通し、言葉や表情の中からご本人の意向を把握出来る様に努めている。	自分の思いや希望を伝える事ができる利用者は、本人の生活歴を含めアセスメントし、その人らしく暮らし続けるよう取り組み、困難な時には家族からの情報や動作などで把握に努め支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用時にご本人やご家族等の関係者の方より聞き取りを行い、利用後もその日・その時の利用者の言葉を大切に聞き取る様にし、その事を基にご家族からも少しずつ聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が気づきの視点を持ち、日々利用者の心身状態の観察を行い、申し送りや経過記録を活用し職員間での情報の共有に努め全体像の把握に繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族等には日々の関わりの中で、必要時には時間をとってもらい意見や要望を聞き取り、主治医・看護師・OT・PTに相談・助言を得、カンファレンスで職員の意見を出し合い、介護計画に反映させている。	介護計画原案も基に本人、家族の要望を取り入れ主治医、看護師、作業療法士と協議しながら、カンファレンスで職員の意見を伺い、介護計画を作成している。	利用者一人ひとりの介護計画が日々のケアの中で運動されていることが確認できるよう、記録の整備を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄の状況、身体的状況や日々の暮らしの様子、ご本人の言葉、気づき、状態変化等を記入し職員間の情報共有に努めている。カンファレンスなどでそれらを基に検討し、介護計画に活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診や必要時におけるの病院受診や往診の対応。その時々のご本人・ご家族からの要望に合わせ、柔軟なサービス提供に努めている。また、ご本人・ご家族が要望等話しやすい雰囲気を作る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事(町民文化祭・イベント・夏祭り)等に参加したり、七夕での地域の子供たちとの交流。地域の方にも参加して頂き消防立ち合いでの避難訓練、必要に応じてSOSネットワークに登録する等、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医を継続受診出来る様に支援している。ご本人・ご家族の要望により受診・通院の送迎や同行は事業所が行っている。	利用者は従来のかかりつけ医を受診し、職員が同行支援をしている。週1回、訪問看護師が健康管理を実施し、隣接の老健施設に医師である理事長が常勤しているので緊急時の体制も整えている。	

認知症グループホーム あずましの里ななえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員（准看護師）が配置されており、常に利用者の健康管理を行い、更に訪問看護ステーションと医療連携契約を締結しており週一回看護師が訪問し血圧測定や健康管理を行っている。その際に職員が入居者の状態を伝えアドバイスや受診の指示、状態変化に応じ24時間体制で随時相談・指示を受けられスムーズに処置や受診の対応が出来る様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、出来る限り面会を行いご本人・ご家族の安心に繋がる様に努める。また病院関係者よりご本人の状態等の確認を行いながらご家族を含め早期退院に繋がる様努める。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応及び看取りに関する指針を基に、契約時にはご家族に事業所が対応出来る最大のケアについて説明し同意を得ている。	看取りに関する事業所の指針を明確にし、契約時に家族に説明し、同意を得ている。職員は重度化に伴う方針や対応を法人の内部勉強会で学び共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応・事故発生時についても事故再発防止委員会を設置してマニュアルを整備している。事故が発生した場合には速やかに事故報告書を作成し、事故原因と今後の対策について検討しご家族への説明を行っている。また、ケースカンファレンスを行い一人ひとりの状況から予測される危険を検討し事故を未然に防ぐ為の工夫を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立会いで避難訓練を年2回行い、うち1回は夜間想定で訓練を行っている。また、災害や火災時の緊急連絡体制も整え日頃からそれらを意識出来る様事務所の目に付く所へ掲示している。	年2回の火災訓練は日中・夜間を想定し実施している。訓練終了後、消防署から反省と指導が行われ、町内会の方々の参加があり、隣接の母体老健施設を含め、各事業所と緊急連絡体制も構築している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない様一人ひとりの生活歴や思いを尊重した言葉掛けや対応に努めている。常に職員間で互いの関わりを点検・注意し合う等対応の徹底を図っている。	職員は利用者の尊厳を大切に、自己決定しやすい言葉かけやプライバシーに配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活歴や表情・仕草・言葉・サインからその人の思いや希望を読み取りご家族に確認し、状況に合った支援で自己決定出来る様働きかけている。入居者一人ひとりの心身の状況、思いの把握に努め、やりたい事些細な事でもご本人が決める場面作りに配慮している。		

認知症グループホーム あずましの里ななえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の生活スタイル、自宅での生活の様子をご家族に伺い一人ひとりの生活スタイルを把握し、その日・その時のご本人の気持ちを尊重し、出来る限り一人ひとりの思いに添ってその人に合った生活が出来る様に柔軟な対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や服装等は自己決定が可能な方はご本人の意向で決めて頂いている。行きつけの美容院の利用を継続する等ご本人・ご家族の希望を聞き支援し、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様に努めている。		

認知症グループホーム あずましの里ななえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒にスーパーへ行き献立を相談しながら食材購入を行ったり、ホーム畑で収穫した野菜を使い利用者の希望や好みを取り入れながら調理し、入居者の出来る事を考慮しながら一緒に準備や後片付けを行っている。	利用者の能力に応じて、買物や調理の下拵え、野菜の収穫と後片付けなど職員と共にやっている。献立は利用者の嗜好を反映して作成しており、母体管理栄養士のチェックを受けている。音楽を流したり会話しながら楽しい食事に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分状況を毎日個別に記録し、一日を通じて確保出来る様職員が情報を共有し把握している。必要に応じご家族・医師・訪問看護師・同法人・栄養課に相談しながら入居者の状態の合わせ食事形態を変更する等柔軟な対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣化しご本人の状態に合わせて職員が見守りや介助を行っている。また、就寝時には義歯洗浄剤で洗浄を行い保管している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄表を記入し排泄パターンを把握し状態に合わせた誘導や時間帯での声掛けを行いトイレでの排泄を支援している。また、失敗時にはご本人の自尊心を傷つける事無い様考慮しながら清潔保持に努めている。	トイレでの排泄ができる利用者が多いので職員は歩行介助やさりげなく声かけをしている。失禁した時もプライバシーに配慮し、羞恥心や不安の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄確認を行い、食生活に留意した乳製品・食物繊維の多い食事の提供や体操を行い、便秘予防を行っている。便秘の酷い方にはかかりつけの医師へ相談し便秘薬等の対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定者は決めてあるが、利用者のその日の希望を確認し、ご本人の希望に出来るだけ添える様に対応し心地良く入浴して頂けるように支援している。	入浴は週3回を目安に支援している。一人ひとりの希望や体調を第一に考えながら、本人の生活のパターンに合わせてたり、童謡や演歌を聴きながら、ゆっくりと入浴できるよう体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人やご家族から生活習慣(就寝・起床・昼寝)を聞き取り個々の睡眠時間の把握に努め出来るだけ日中活動出来る様に支援している。不眠の場合はその状況に応じて対応し、必要時かかりつけ医へ相談、体調管理や生活リズムを整える様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別にファイルし職員が薬の目的や副作用、用法や用量の把握に努め、医師の指示通りに服薬出来る様に支援し症状の変化を確認している。服薬の際にはスタッフ同士で声掛けし、誤薬のない様確認徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中からそれぞれの得意分野を観察し、個々の状態に合わせた家事作業やレクリエーションを行っている。利用者の負担とならない様に声掛けに配慮し、作業終了時には感謝の言葉を伝えている。趣味や嗜好品もご本人・ご家族と相談し継続出来る様に支援し、気分転換や張り合いを持ち日々暮らせる様支援している。		

認知症グループホーム あずましの里ななえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望時には出来るだけ希望に添える様、また、天候やご本人の希望に応じて散歩やドライブ・買い物等柔軟に対応が出来る様、職員間で連携し支援を行っている。	天気の状態を勘案しながら、利用者の希望に沿って近くの「寿緑公園」や買物と事業所周辺の畑に出かけている。春はお花見から秋の紅葉まつりまで年間計画を立てて外出を支援している。ドライブは利用者の五感刺激となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人から希望がある場合にはご本人の力量についてご家族と相談の上自己管理して頂いている。買い物の希望がある場合は商品の選択やレジでの支払い等の見守りと一部支援を行いながら出来るだけご本人に行ってもらえる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には取次の支援や見守りを行いながらいつでも自由に電話して頂ける様体制を整えている。手紙に関しては希望があれば郵送や読み聞かせの対応を行っていきたくと考えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光や風を感じ、違和感や威圧感を感じさせず心地良く生活出来る様な共用空間作りに配慮している。テレビや音楽のボリューム調整や生活音の騒音に配慮を心掛けている。	食卓テーブルやソファが家庭的に配置されており、畳敷きのスペースがあり、利用者はお気に入りの場所で過ごしている。壁面には行事の時の写真が飾られ、天窓からの明かりが射し込み、季節感のある装飾が工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの構造上一人になれる空間はないが各居室やリビングにある座敷にて過ごして頂いている。また、食事での座席やリビングソファで過ごす際には利用者同士の相性も考慮し安心して頂ける様支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者やご家族と相談しながら今まで使い慣れた寝具やタンス・家具や写真等を持ってきて頂き、安心して過ごせる空間となる様心掛けている。	居室は8畳程の広さで、クローゼットが備え付けられ、ベットを使わずマットや布団の寝具は在宅生活と変わらない環境を願う家族の工夫が見られ、居室の入口に飾られている羽子板は本人の作品であり、馴染みの物や思い出の品があり、居心地のよさに工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の生活空間の随所に手摺りを設置、浴室内の床は滑りにくい材質の物を使用したり、トイレは車椅子でもでき自立した生活が送れる様に工夫している。各居室の前に表札等目印となる物を設置するスペースも設け混乱を防ぐ為の工夫を行っている。		

目標達成計画

事業所名 認知症グループホーム あずましの里ななえ

作成日：平成 26年 2月 24日

市町村受理日：平成 26年 2月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	利用者様、ご家族様とのコミュニケーション不足や来所時などでの話しやすい雰囲気づくりへの配慮が不足していた。	職員一人ひとりの意識を高め利用者様ご家族様が話しやすい雰囲気作りに努め、日々の関わりからも意見要望を聞き取り運営に反映できる。	利用者様、ご家族様からの意見や要望は全職員が周知できる様に記録や各日誌に記載する。また、申し送りを活用し職員間での情報の共有を密に行う。施設内独自の利用者様、ご家族様総評価アンケートを実施し運営に反映させる。集約した結果についてはご家族様へ配布すると共に、施設内へ一定期間掲示する。	1年
2	26	記録用紙の整備はされてはいたが活用しきれいなかった。	日々、介護計画と連動した介護経過記録を記入する。	日々のサービス内容が介護計画と連動していることが明確となる様、介護経過記録にケアプラン番号を記入する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。